

第80回 令和7年9月9日（火）

核抑止論の不可能性について。

人間はエゴが強い生き物です。自分の命が尽きると、世界が滅亡すること、この究極の2択になったときにどちらを選択するでしょうか。

核抑止論とは核戦争になれば人類が滅亡することは明白なので核兵器があることが最終戦争の抑止になるという考え方です。核武装している国は核兵器があることで敵が攻めてこないと考えています。

核兵器を所有しているロシアが何年も戦争している事実をもってしても、核抑止論は破綻しています。ロシアのリーダーはことあるごとに核兵器の使用も辞さないと表明しています。

中国、ロシア、北朝鮮の首脳が中国の抗日記念の軍事パレードに参加する様子が映像で流されました。対抗軸は明らかにアメリカです。世界の巨大核保有国がお互いにけん制しあっているわけです。核があるから戦争にはならないと考えるのは楽観的すぎるでしょう。

このときの映像で3カ国のリーダーは臓器移植をすれば150歳まで生きられると話していました。本気かどうかわかりませんが、プーチンも習近平もすでに70歳を超えています。

生きることに執着する人間に死が迫った時、冒頭の究極の選択の場面が訪れるかもしれません。自分と世界を同価値と考えていれば、核抑止論は役に立たないと思います。

昔よりボタンを押すことに抵抗感がなくなっている気がします。どの国も簡単にSNSで極端な主張を発信します。全世界に届くと思えばもう少し慎重になるべきではないかと思うのですが、核保有国であることが万能感を植え付けているかもしれません。

自分を神であると勘違いしているリーダーに核の抑止はできないと思います。神話では怒りによって神は簡単に人類を滅ぼす決断をしてきました。もし150歳まで生きることができたら、危険な万能感を持つであろうことは容易に想像できます。

新たなリーダーを立てることができるのはその国の国民だけです。民主主義国家は選挙でリーダーをえることができますが、1党独裁の全体主義の国は革命をおこすなど、ハードルがものすごく高くなります。それでも「権力は腐敗する」は大昔からある真理です。

核が世界からなくなる日が早く来てほしいと心から願っています。